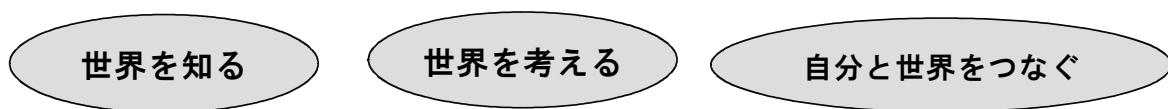


研究を推進していくためにも新たな視点を掲げる必要性が高まってきている。

十勝地区国際理解教育研究会研究部員のアンケートによると、私たちが大切にしたい授業は「自国を知り、世界とのつながりの中で、日本としてあるいは日本人としてどう考え、どう行動していくのか、考えさせる授業」が共通の思いであった。そのためには、子ども達にとって刺激的な題材を通して、新たな価値を創造し、伝え表現する力が必要不可欠となる。

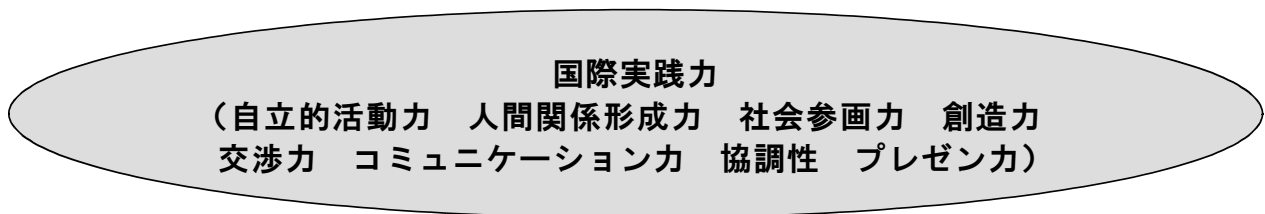
変化が激しく、前例のない出来事が起きる国際社会の中で、既成の知識だけでは対応できない状況を生き抜いていく資質の基礎基本を、学校で身に付けさせたい。得た知識や技能、想いを生かし、生き抜く力（出力 output）を国際実践力と定義し、その実践力を高める研究を進めていきたいと考える。

これまでの実践



+

OUTPUT（出力）に必要な力

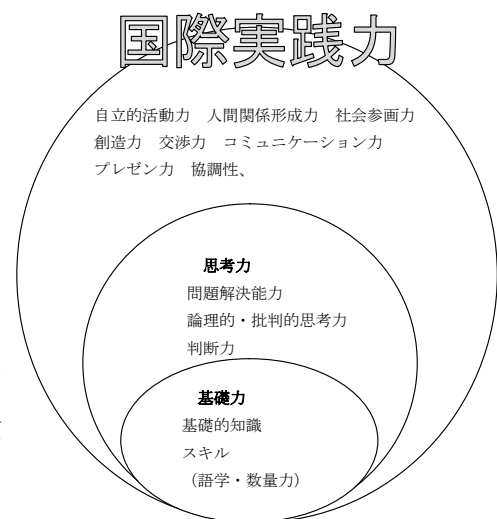


これまでの研究の成果を踏まえ、新たな一步を踏み出したいと考えている。

国際実践力とは

国立教育政策研究所は「教育課程の編成に関する基礎的研究」で21世紀を生き抜く力を「21世紀型能力」と名付けた。その21世紀型能力は、「21世紀を生き抜く力をもった市民」としての日本人に求められる能力であり、「思考力」、「基礎力」、「実践力」の3つの力で構成されている。この3つの力を当研究会では国際実践力と解釈し、研究を推進していく。

この21世紀型の能力を高める育みは、全教育活動でなされることは当然であるが、国際理解教育においては最も必要な力であり、世界とつながることを重視する当研究会にとってはより具体的な成果を感じながらの研究・実践がしやすいと考える。



※サブテーマ：国際実践力の育成を目指す学びの創造